

□議員名：吉永 美子

1 安心・安全なまちづくりについて

論点	西日本豪雨による被災状況から 本市が教訓と捉えたものは何か。
回答	市の防災体制について、地域防災計画やマニュアル等の職員への浸透が決して十分でないこと、また、本部体制を含め、全体が円滑に活動するための更なる工夫が必要であると感じている。11月に防災訓練を実施する予定にしており、改善点等も含め検証していきたい。

論点	災害弱者への配慮について、特に、外国人への対応状況を聞く。
回答	県で作成された外国人向け防災ハンドブックを市役所や支所などに置いており、希望者に対し渡している。市として有効な対策は、このような取り組みを継続することだと思っている。

論点	避難所としての小中学校における環境整備について、体調を悪くされないように空調やトイレの整備は大丈夫か。
回答	今年度で、小学校の屋内運動場のトイレは全て洋式となる。来年度以降は、中学校の屋内運動場のトイレや屋内運動場にトイレのない学校の校舎のトイレの洋式化に取り組んでいきたい。空調設備については、学校の管理運営に配慮して、空調設備のある教室等を開放していきたい。

論点	ブロック塀倒壊の危険性について、民家への助言をどうしていくのか。
回答	「ブロック塀の安全点検のお願い」を作成し、8月1日からホームページに掲載中である。また、市広報8月15日号に「ブロック塀を点検しましょう」として、点検のチェックポイントや問い合わせ先、助成事業を掲載し周知している。

2 動物愛護について

論点	動物愛護管理法では9月20日から26日を動物愛護週間と定めているが、動物愛護月間である9月の取り組みを聞く。
----	--

回答	今年度、動物愛護月間に当たり、特に大きなイベント等は予定していないが、今後とも動物愛護の取り組みとしてふさわしい活動があれば、それに向けて前向きに検討していきたい。市内の獣医師と協議し、飼い主等への啓発を検討している。
----	---

論点	特に猫について、飼い方や避妊・去勢の必要性をもっと周知していくとともに、避妊・去勢の助成制度を実施すべきではないか。
回答	終生飼養はもちろん、猫の飼い方として推奨されている完全室内飼育などの啓発を継続して行っていく。避妊・去勢の助成制度については、財源の確保や補助対象について検討している。

論点	山口東京理科大学薬学部について、実験動物に関して動物愛護や動物福祉の観点から規定を設けるべきと昨年 9 月議会で提言したが、設置者として大学とどのような協議を行っているか。
回答	協議はしていないが、大学では、実験動物の飼養や保管、科学上の利用について客観性及び透明性を確保しつつ、現在、法や国の基本指針及びガイドラインに基づき、動物実験に関する規定の策定や動物実験委員会の設置など、体制の整備に向けて準備を進めている。

3 障がい者支援について

論点	障害者文化芸術活動推進法が施行されたが、障がい者の文化芸術活動を推進するために、どのような取り組みを行っているか。
回答	障がい者の文化芸術の振興については、障がい者計画に方向性を示している。障害福祉サービス事業所の作品を障害者週間にあわせて発表する機会の提供や、外出支援として移動支援や手話通訳等の派遣、文化芸術の鑑賞の機会の拡大に向けたサービスも行っている。

論点	省庁や自治体における障がい者雇用の水増しが明らかとなっているが、本市の障がい者雇用は信頼できるものとなっているか。
回答	本市においては、障害者手帳を交付されている者について手帳を確認しており、水増しはないし、指摘も特に受けていない。

論点	本市における障がい者の雇用について、現状を聞く。
回答	法定雇用率に基づく必要人数を雇用しており、平成 26 年度以降、特別枠は行っていない。再任用任期付や会計年度任用職員、定年延長等が近い将来見込まれることも含めて広く検討することとしている。現状では、知的障害者の職員としての雇用は難しい。

4 子育て支援について

論点	小児がんの網膜芽細胞腫早期発見のため、乳幼児健診の際、医師のチェック項目に「白色瞳孔」を追加してはどうか。
回答	現在、問診票に「白色瞳孔」という名称を持ったチェック項目はないが、「目の異常」という項目がある。診察は小児科の医師が行うので、チェックしておかないといけない症状についてはチェックできているものと考えている。

論点	不育症に悩む方に正確な情報を提供し、心理的、医学的な相談を行う患者支援が必要だが、不育症の周知方法はどうか。
回答	不育症に対する相談窓口は、山口県立総合医療センター女性の悩み相談室、山口宇部健康福祉センター不妊専門相談がある。周知については、市広報やホームページ、チラシを通じて情報提供に努めている。